

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	有機化学I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)／必修科目(食品生物資源コース)／必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	松本 幸三						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結合に関与する価電子を理解し、イオン結合、共有結合等を自由に書ける。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物が命名でき、その構造が書ける。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物の基本的性質が説明できる。</li> <li>・アルケン、アルキン、芳香族化合物への求電子付加反応を理解し、反応式が書ける。</li> <li>・有機化合物を立体的にとらえてその性質を説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/8：授業の進め方と概要、成績評価法、有機化学とは何かについて説明。  4/15：原子の電子配置、イオン結合、共有結合、多重結合、原子価。  4/22：構造異性、形式電荷、共鳴、化学反応における矢印の意味。  4/29：結合の軌道論的な考え方、炭素原子の混成軌道。  5/13：アルカンのIUPAC命名法、アルカンの性質、アルカンの立体配座。  5/20：シクロアルカンのIUPAC命名法、シクロアルカンの立体配座、cis-trans異性。  5/27：結合と構造異性、アルカンの演習。  6/3：アルケン、アルキンの命名法、アルケンの構造と軌道、cis-trans異性。  6/10：アルケンへの求電子付加反応とその反応機構。  6/19：アルケンへの付加反応の過程。  6/24：アルキンの構造と軌道、付加反応。  7/1：芳香族化合物、ベンゼンについて。  7/8：芳香族化合物における求電子置換反応。  7/15：立体化学  7/22：アルケン、アルキン、芳香族化合物、立体化学の演習。  7/29：定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	40%					
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結合に関与する価電子を理解し、イオン結合、共有結合等を自由に書ける。 達成した。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物が命名でき、その構造が書ける。 達成した。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物の基本的性質が説明できる。 達成した。</li> <li>・アルケン、アルキン、芳香族化合物への求電子付加反応を理解し、反応式が書ける。 達成した。</li> <li>・有機化合物を立体的にとらえてその性質を説明できる。 達成した。</li> </ul>						
反省点	学生の理解度をみながら、授業の進度を調節しようと試みた。その結果、少し早く解説しすぎた部分や難しいところがあったように感じた。最後の立体化学を説明する十分な時間が取れなかった。また、演習問題の問題のレベルが少し低かったように感じた。						
来年度の計画	応用的、発展的な部分の解説の時間を減らし、基本的な部分の説明時間を多く取りたい。立体化学は焦点を絞って説明したい。演習問題のレベルを少し上げたい。声を大きくはっきり発音するように心がける。理解できていない学生に直接声掛けをしていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	10点総合評価で平均8.6点はほぼ問題はないと感じている。授業内容のレベル、量はほぼ妥当であったと思う。演習問題と試験問題のレベルを申すし上げた方がよいように感じた。授業評価アンケート結果によれば予習・復習があまりできていなかったようであるので、来年度は自ら予習・復習ができるように指導したい。						
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	68名	合格者数	68名	合格率	100%